

LUCIA

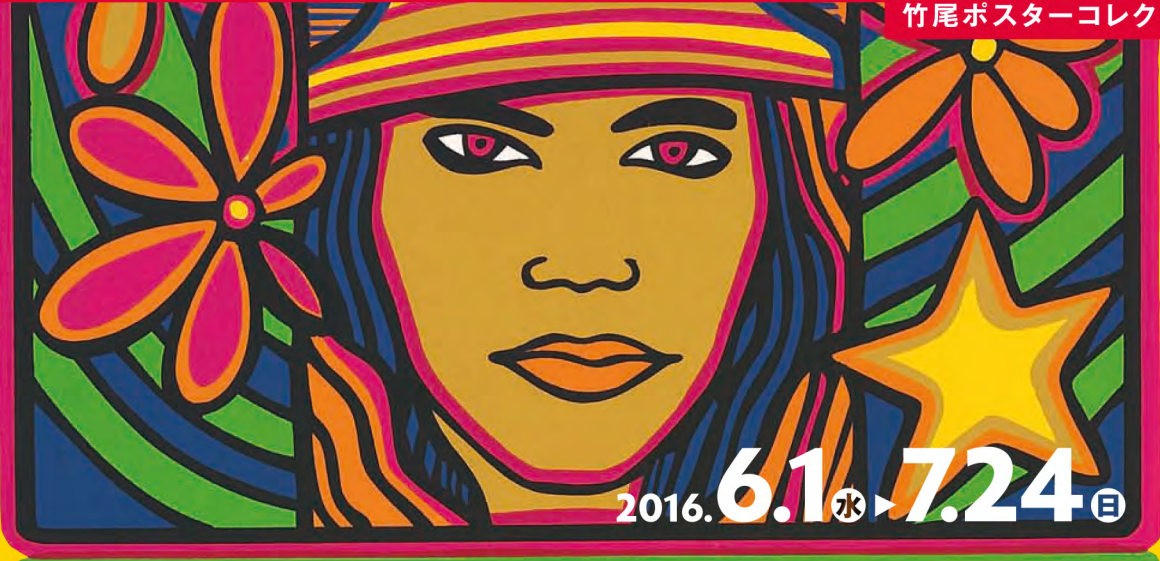
CARTELES CUBANOS DE CINE



★
展覧会

キューバの映画ポスター

竹尾ポスターコレクションより



2016. 6.1(水) ▶ 7.24(日)

★ UN FILM CUBANO DE HUMBERTO SOLAS ★
CON RAQUEL REVUELTA ★ ESLINDA NUÑEZ ★ ADELA LEGRA ★

『ルシア』(1968年/キューバ/ウンベルト・ソラス監督) ポスター:ラウル・マルチネス(1968年) ㊦

京都国立近代美術館 [岡崎公園内] THE NATIONAL MUSEUM OF MODERN ART, KYOTO

開館時間: 午前9時30分~午後5時、但し7月22日を除く毎週金曜日は午後8時まで開館(いずれも入館は閉館の30分前まで) 休館日: 7月18日を除く毎週月曜日、6月3日◎および7月19日◎
主催: 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館フィルムセンター 後援: 駐日キューバ共和国大使館 協力: 株式会社竹尾、多摩美術大学



1



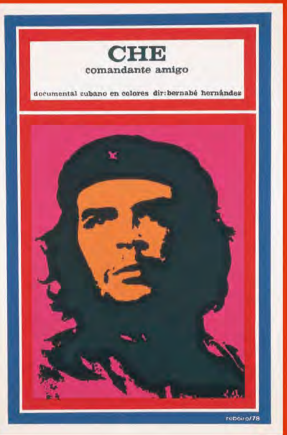
2



3



4



5

映画ポスターの楽園へ。

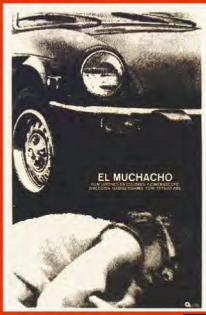
カリブの島国キューバが、映画ポスターの国でもあることをご存じでしょうか？
魅力的な音楽やダンスで常に注目を浴びるキューバは、1959年の革命以降、国立の映画芸術産業庁（ICAIC）を拠点に次々と先鋭的な映画を送り出してきた「小さな映画大国」でもあります。新ラテンアメリカ映画祭の開催でも知られる首都ハバナは、ラテンアメリカ映画の中心地のひとつとなっています。
そのキューバは、映画の宣伝においても“革命的な”手法を取り入れました。映画ポスターのグラフィックに様々なデザイナーや画家を招き、その製作を

大量印刷向けのオフセットではなく手刷りのシルクスクリーンで行うという独自性は、一国の映画産業として世界の他のどこにも見られないものです。エドゥアルド・ムニョス・パッチ、レネ・アスクイ・カルデナス、アントニオ・フェルナンデス・レポイロをはじめとする作家たちが、映画作品からの刺激を通じて生み出した豊かな色合いと華やかな表現は、映画に新たな価値を与えるとともに、それ自体が鮮烈な作品となっています。

この展覧会では、当館と東京国立近代美術館フィルムセンターの共催により、多摩美術大学に寄託されている竹尾ポスターコレクション所蔵作品を中心に、革命期から1990年前後までに制作された85点の映画ポスターを紹介いたします。キューバ映画はもちろん、盛んに輸入された外国映画のポスターにも焦点を当て、知られざる「映画ポスターの楽園」に皆様を誘います。



6



7



8



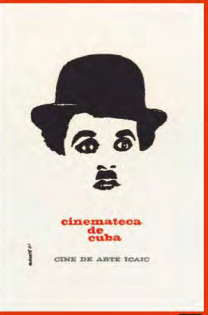
9



10



11



12

- 1 『怒りのキューバ』(1964年/キューバ/ソ連/ミハイル・カラトゾフ監督) ポスター:レネ・ホルトカレロ(1964年) ㊦
- 2 『ファン・キンクの冒険』(1967年/キューバ/フリオ・ガルシア・エスピノサ監督) ポスター:エドゥアルド・ムニョス・パッチ(1967年) ㊦
- 3 『低開窓の記憶』(1968年/キューバ/トマス・グティエレス・アレア監督) ポスター:アントニオ・サウラ(1968年) ㊦
- 4 『テレサの肖像』(1979年/キューバ/バスタード・カブレラ・モレノ監督) ポスター:セルバンド・カブレラ・モレノ(1979年) ㊦
- 5 『チェ、友なる司令官』(1977年/キューバ/ベルナベ・エルナンデス監督) ポスター:アントニオ・フェルナンデス・レポイロ(1978年) ㊦
- 6 『座頭市凶状録』(1963年/日本/田中徳三監督) ポスター:アルフレド・ゴンサレス・ロストガルド(1968年) ㊦

- 7 『少年』(1969年/日本/大島渚監督) ポスター:レネ・アスクイ・カルデナス(1976年) ㊦
- 8 『カメラを持った男』(1929年/ソ連/ジガ・ヴェルトフ監督) ポスター:アントニオ・ベレス・ゴンサレス[ニコ](1977年) ㊦
- 9 『白鯨』(1956年/アメリカ/ジョン・ヒューストン監督) ポスター:アントニオ・フェルナンデス・レポイロ(1968年) ㊦
- 10 『三銃士』(1973年/イタリヤ/リチャード・レスター監督) ポスター:エドゥアルド・ムニョス・パッチ(1976年) ㊦
- 11 『カラスの飼育』(1976年/スペイン/カルロス・サウラ監督) ポスター:エドゥアルド・ムニョス・パッチ(1977年) ㊦
- 12 シネマテカ・デ・クバ [キューバ国立映画保存所] ポスター:ラファエル・モランテ・ポレイロ(1961年) ㊦

㊦: 竹尾ポスターコレクション所蔵 ㊦: 東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵

ギャラリートーク

6月12日① 第1回目 12:00~13:00
第2回目 15:00~16:00

岡田秀則(東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員)

会場:本展開催場所(4階コレクション・ギャラリー)
※聴講無料、要観覧券、各回開始10分前にコレクション・ギャラリー入口にお集まり下さい。

クラブイベント

サルサ・ナイト @MoMAK

7月16日① 18:00~21:00

DJ:ロドリゴ西

会場:京都国立近代美術館1階エントランスホール
主催:京都国立近代美術館、NPO法人・日本ラテン文化振興協会
入場料金:1000円、当日券のみ

映画上映会 NFC所蔵作品選集 **MoMAK Films 2016**
キューバ映画特集 CUBAN FILM RETROSPECTIVE

7月15日① 17:30開場
18:00-20:40 『ルシア』(監督:ウンベルト・ソラス、1968年、160分)

7月16日① 13:30開場
14:00-15:37 『はじめて映画を見た日』(監督:オクタビオ・コルタサル、1967年、10分)
『レポルシオン 革命の物語』(監督:トマス・グティエレス・アレア、1960年、87分)
15:50-17:42 『天国の晚餐』(監督:トマス・グティエレス・アレア、1978年、112分)

会場:京都国立近代美術館1階講堂
主催:京都国立近代美術館、東京国立近代美術館フィルムセンター
料金:1プログラム520円、当日券のみ、先着100席
※上映作品の詳細については、当館ホームページまたは「Momak Filmsプログラム」をご覧ください。
※上映作品は都合により変更になる場合があります。

観覧料 一般430円(220円)、大学生130円(70円)
※カッパ内は20名以上の団体料金 ※本料金でコレクション・ギャラリーもご覧いただけます
※高校生以下、18歳未満および65歳以上、心身に障がいのある方とその付添者1名は無料(入館の際に証明できるものをご提示下さい)

交通案内

- JR・近鉄京都駅前(A1のりば)から市バス5番 銀閣寺・岩倉行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- JR・近鉄京都駅前(D1のりば)から市バス100番(急行) 清水寺・銀閣寺行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪三条駅から市バス5番 岩倉行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 阪急烏丸駅・河原町駅、京阪四条駅から市バス46番 祇園・平安神宮行「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ
- 市バス他系統「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」または「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分
- 地下鉄東西線「東山」駅下車徒歩約10分

※当館には駐車場がございます。岡崎公園駐車場(地下)をご利用下さい。
※岡崎公園駐車場をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)が受けられますので駐車券をお持ちの上お越し下さい。

京都国立近代美術館
http://www.momak.go.jp

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町
お問い合わせ: 075-761-4111(代)
テレホンサービス(展覧会のご案内): 075-761-9900

